

BCP 災害時対応机上訓練

BCP 訓練の種類と内容

- ・防災訓練(避難訓練含む)以降に重要業務を優先順位をつけて実施するのが BCP
- ・予期せぬことも発生するため、実際の災害や感染症など発生時に活用できる BCP に訓練を通じてブラッシュアップすることが不可欠

1. BCP 訓練 (机上訓練+実地訓練)

- 1) 参集訓練 (夜間及び休日対応を含む) 対策本部員+スタッフ
- 2) 対策本部設置訓練 (対策本部員) 屋外設置や垂直避難して設置する場合など含む
- 3) 行動基準確認: グループ討議などで初期対応の基準や優先度、課題の確認を行う
- 4) 机上訓練 (イメージトレーニング)
- 5) 安否確認訓練
- 6) 実動訓練
- 7) 総合訓練

2. 机上訓練の準備

- 1) 会議室などに対策本部を設営(ホワイトボード、パソコン、電話、名簿など)、対策本部メンバーを集合
- 2) 事前に訓練シナリオを用意
- 3) 進行役を決めてシナリオに沿って、ワンステップずつ説明し、対策本部長以下、それぞれの班が何を行うのか考え、発表する。対策が不十分な場合、記録を取り、反省会で振り返り、BCP に反映する

状況設定 1. (自宅での被災)

- ・震度 7 の地震
- ・22 時ごろ自宅で就寝直前に発生
- ・家族構成 夫婦、子供 1 人
- ・津波・火災は発生しない
- ・停電・断水が発生
- ・電話・データ通信が錯綜して使えない
- ・道路の状況は不明

状況設定 2. 職場

- ・震度 7 の地震
- ・15 時ごろ職場で発生
- ・あなたは事業所の責任者
- ・事務所で書類を書いていた。もしくは利用者宅を訪問中
- ・津波・火災は発生しない
- ・停電・断水が発生
- ・電話・データ通信が錯綜して使えない
- ・道路の状況は不明

初期対応からの対応案とポイントを記載してください

3. 災害発生時及び直後の対応

人命優先…職員の人命も含む

- ・地震発生時・・・おさまるまでスタッフの安全確保優先
- ・実際の職場環境や訪問先環境でイメージする。書庫やキャビネットは固定？コピー機は動かない？、ドアの開閉は？ 台所は危険がいっぱい
- 送迎中ではブロック塀から離れる、車を乗り捨てるなど
- 地震速報は受信可能？ テーブルの下に避難可能？、停電・断水対応？
- ・危険を感じた時は、職員は消防隊や救命隊にどこにだれが残されているのか、利用者情報と現状の安否を伝えることが役割。また、避難できた人の不安も大きいため、心身の負担が軽減するように支えるのが役割。危険に飛び込むことが役割ではない。

- ① 「けがをしても生命を救う」ことが優先
- ② 救える命を救う
- ③ そのためには職員は自らの安全確保を行う

4. 被害の確認

1) スタッフの状況確認とルール(携帯カードなどの活用)

- ① 連絡基準・方法
 - ・事業所内出勤者の安否確認が最優先(戦力の確認無しでは戦えない)
 - ・非番スタッフの確認、SNS や伝言ダイヤル、公衆電話など 三角連絡報
衛星電話、無線、災害時優先電話 原則スタッフから報告させるようルール化しておく
 - ・出社指示など職員への連絡方法としてはチェーン連絡方式とせず、「連絡責任者固定方式」とする。
- ② 連絡内容 定型文の周知、参集対象者が参集可能か
参集対象となっていないスタッフでも参集が可能な場合
- ③ 参集基準 シフトに関係なく参集できるスタッフ、参集しなくてはならないスタッフを確定しておく(交通手段と距離・職位・役割)
停電は1週間程度つづき電話も不通になることが予測される
- ④ 初動対応の行動基準…様々な介助場面での災害発生時の対応
(ルールの周知と徹底)
 - ・送迎中は揺れを感じたら停車をドライバーに徹底させているか
 - ・スタッフ自らが安全確保を徹底できているか など

2) 利用者の確認

① 利用者状況

(夜間、停電中などのときに寝たきりや認知症の人など、どのようにしてリストアップし、確認できるか。チェックリストはどこにありますか)

サーバーの定期的更新、定期的プリントアウト、上層階への情報設置

② 確認の優先順位

在宅では要介護の独居や老夫婦世帯、施設内では移動可能な利用者

③ 避難の必要性の有無

避難所だけではなく屋内避難をどこにするのか、デイルームなどに移動できる利用者から集約

④ 負傷者などの対応(災害時に救急車は要請できるか)救急救護ができる備品の確認と応急処置の知識(打撲切り傷など軽症は応急処置する)

⑤ エレベーター停止時の閉じ込めやスプリンクラーの誤作動など

入浴中・リハビリ中・トイレでの排泄介助中、睡眠中などのシチュエーションごとの対応

⑥ 家族・ケアマネ・他機関との連絡・連携

3) 情報をどこでどのように集約し、必要な場所(幹部など)への発信はどのようにするのか(対策本部が立ち上がっていない場合)

※避難後、業務優先度を判断し、行動基準に落としていくのがBCP

BCPが発動されたとき最初にしなくてはならないのはスタッフの安否確認(連絡手段)

当日及び翌日の職員配置はどのようにできるかによって、業務の優先順位をきめる

※ 責任者(司令塔)は動かず、指示を出し、報告させる。情報集約

※ 事業所の多機能電話は停電では不通。黒電話、公衆電話はNTTから電力供給されているため通話可能な可能性高い

5. 災害状況の確認

ネットやSNSの安易な活用は用心、災害後はフェイクニュースに注意

ガラス飛散など危険な場所へはバリケードや張り紙(2次災害を防止する)倒壊リスクなどは外へ非難、密集地域では災害後の火災を想定し早めに避難

6. 必要な資源の確認

職員・建物・設備・物品(衛生材料等)ライフライン(電気・水道・ガスなど)(断水でも初期なら浴槽にため湯の可能性)

救急箱の中身を充足(救急車稼働しないことを前提に初期対応に備える)

7. BCP の発動 業務の優先度と調整方法

- ・スタッフのマンパワー確認・・・現状のスタッフの安否確認＋明日以降の職員の確保
- 対策本部員にどのように連絡できるか、管理者が倒れた時の代替手段は？
- ・送迎車との連絡

8. 業務継続と重要業務の確認

- ・医療的ケアの有無と継続可能か
- ・訪問系については必要度に応じて優先順位を絞り込む、避難所へ非難している利用者の情報なども確認作業が重要
- ・断水時や配管損傷時のトイレ・・・緊急用のトイレ設置の必要時間、台数(スタッフ用・利用者用)シュミレーション必要。
- ・排泄物は固形剤を使用することで燃えるゴミに転化、女性用生理用品
- ・飲料水と生活用水に分けて確保・削減策を検討(成人で1日 1.5～3 リットル必要可能であれば浴槽などへ貯め水(水を使わない代替手段の準備が基本)
- ・紙皿、ラップ、給水車からの補給用に大きなポリタンクなど
- ・サブバッテリーの有無と稼働方法、切り替えは自動か？ 稼働させる方法を周知しているか？ 自動車のバッテリーや電気自動車、操作方法のレクチャー、使用する優先順位(ガソリンの不足や電源の開通など)
- ・ガス・・・都市ガスは復旧まで約 1 か月、カセットコンロは火力が弱く大勢の調理は困難、調理できる食品を備蓄する必要。もしくは(プロパンガス・五徳コンロの用意)
- ・余震など利用者への不安軽減のための声掛け、施設内での集合場所
- ・スタッフの出勤困難。帰宅困難
(利用者については①通常の送迎、②家族引き取り、③避難所への避難が基本)
しかし家族と連絡が取れるか？ 普段からSNS活用しているか？
- ・通所・訪問事業所でも帰宅できない場合、短期での利用者の宿泊を考える必要あり。スタッフでも帰宅困難者発生
- ・その場合のマットや水・食糧
(東京では 72 時間ルール、72 時間分の水・食料の備蓄)
- ・外部との連絡手段・・・公衆電話など大規模施設では1回線設置しておく
- ・水分補給。栄養補給、夜間時、日中に分けて対応
- ・断水すると洗い物は困難(使い捨て食器、ラップなどの備蓄)

- ・薬(現在飲んでいる薬)・お薬手帳などの確認、過去の薬の購入履歴
 - ・訪問・通所系ではガソリンの入手の問題(訪問・出社の障害)
 - ・対策本部が設置されたのちは、柔軟に方針決定を議論し、対応する
特に業務再開や BCP の段階引き上げや引き下げなどは柔軟に議論
通常から議論によって方針決定しプロセスが現場スタッフに伝わりやすい体質を
作っておくことが重要
 - ・すべてのシナリオを作成は困難・・・道路開通や通信復旧など以降は対策本部
で決定するという柔軟性も必要
 - ・事業再開についてや想定不可能なことについても、継続的に対策本部で議論し
合うプロセスを BCP にもりこんでおくことが重要
- ・安否確認はケアマネとの共有(在宅のネットワークをたがいに活用出来るよう情
報共有に努める。

※研修については複数のサービス合同実施は可能(初動対応・安全確認・参集基準
など)

※訓練についてはサービスによって優先順位が異なる場合があるため別に実施が
望ましい。

※対策本部や本社機能がある事業所では連動させながらの訓練が望ましい

※机上訓練後、必ず課題を整理し下記基準に基づき、評価を行う

訓練の評価

訓練後は必ず振り返り、分析、評価を行い、改善することが重要

- 1) 達成度 期待された行動がとれたか
- 2) 迅速性 対応に要した時間
- 3) 正確性 与えられた状況を正確に整理できたか
- 4) 柔軟性 検討できた対応の数

4. 3 業務継続の阻害要因(感染症)

3

➤ 感染拡大が続くリスクを理解する(想定力が重要)

区分	行動	阻害要因	対策
感染防止	体調管理	発熱しない感染者がいる	定期的なPCR、抗原検査の実施
	教育	感染防護具の着衣等の教育不足により感染者発生時に職員が感染する	感染者発生時に専門家の指導を受ける
初動対応	第一報	BCPの発動を決定せずに感染が拡大する	感染(疑い)者が1名発生した時点で、BCPを発動し、情報収集を行う
		家族連絡に人手を要する	SNS等の同時発信手段を検討
	消毒	職員が共用しているパソコン、電話機等から感染が拡大する	消毒すべき箇所を漏れなくマニュアルに記述する
業務継続	感染防御	感染防御のために人手を要する	人員の増強、残業等での対応
	職員確保	職員が感染し人手が不足する	優先業務・利用者にサービスを限定
	情報共有	携帯電話で家族に連絡すると電話に出てくれない	施設の携帯電話の番号も事前に伝えておく
	想定外の事態発生	入所者のクラスター発生	早期に医療専門家の指導を受ける
		職員のクラスター発生	復帰計画を作成し職員に出口を見せる
		給食職員のクラスター発生	非常食の提供を想定しておく

【補足資料】業務継続の阻害要因(地震・水害)

37

➤ 電話などが、「できないこと」を理解する(想定力が重要)

区分	行動	阻害要因	対策
防災	安全確保	事前に身構えられない 建物が倒壊する等のリスク	緊急地震速報を活用した行動 事前のリスク対策(ひな形を参照)
	避難	津波などから短時間で避難可能？ 避難先を知っている？	避難訓練の実施 移動、訪問中の避難を行動基準に明記
	応急処置	救急箱がある？ 処置方法は？	救急救護の訓練の実施
初動対応	状況確認	電話が通じない(停電、混線) 照明器具が停電時に取出せる？	停電で使えない機器を確認し対策実施
	情報連絡	電話が通じない(停電、混線) 自宅の電話も通じない	自宅、携帯、メール、SNSなど多くの連絡方法を検討
	安否確認	電話が通じない(停電、混線) 管理者が安否確認を開始できない	複数の人が安否確認を発動できる 安否確認の結果を共有できる
業務継続	帰宅困難	職員、(利用者)が帰宅できない	水と食料、寝具等の備蓄。トイレの対応
	業務継続	少ない職員で業務を継続できない 職員が集まらない	事前に参集できる人員を想定する 参集基準を作成し徹底する
	安否確認	利用者の避難。避難先の把握	各サービス、地域で連携してケア

引用・参考資料

厚生労働省 令和5年度 介護 BCP 策定支援セミナー
机上訓練(入所系・通所系・訪問系)